

■児童・生徒の学力の状況

○本年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国語・算数・理科の3教科ともに、東京都の平均正答率を上回る結果となった。国語科では10ポイント、算数科では15ポイント、理科では12ポイント東京都の平均を上回った。学習の基礎基本が定着している児童が多いこと、投げ出さずに粘り強く考えて回答したことが、好成績につながった。課題としては、問題文の指示を取り違えた誤答が散見された。

○RSTでは、「同義文判定」と「推論」の分野がやや苦手の傾向にある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○板橋区授業スタンダードの徹底に向け、今後も継続して授業改善を図る必要がある。既習の学習内容を振り返りながら指導し、基礎的・基本的な知識や技能の定着と向上を図るための工夫をする。

○「読み解く力」の育成を図るため、基礎的読解力の6つの視点を意識した授業の徹底を継続して行う。相手に伝わるように自分の考えを説明したり、文章でまとめたりする力を身に付けさせる指導の工夫も並行して行う。

○児童同士の主体的・協働的な学びを促し、課題解決に向かう意欲を高める指導の工夫を引き続き行う必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○学校教育目標の「よく考える子」～最後まで課題に取り組み解決しようとする子～に重点を置き、確かな学力の定着と生きる力の育成を目指して、指導方法の工夫・改善に努め、学習意欲を醸成、生涯にわたって学習しようとする意欲と態度を養う。

○確かな学力の定着・向上を図るため、「板橋区授業スタンダード」を基盤とした「読み解く力」を育む授業革新をすすめる。

○ICT環境を計画的かつ効果的に活用した、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させることにより、思考力・判断力・表現力を養い、互いの考えを交流させることによって学びに向かう力や豊かな人間性を育てる。

○一人一台端末や電子黒板等のICT機器を意図的・計画的かつ効果的に活用し、「分かる・できる・楽しい」授業革新をする。また、児童相互の主体的・協働的な学びを促し、問題を自ら追求しようとする意欲をもたせ、共に学び合いながら自己を高めていく児童を育成する。

○家庭と連携しながら学習習慣の定着及び、学習内容の充実をめざし、児童一人ひとりに基礎的・基本的な知識や技能の習得を図り、確かな学力の定着と向上をめざす。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードSへのチャレンジ	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○子供たちの自己選択、自己決定、自己調整を取り入れた授業を各教科、各単元の計画の中に組み込んでいく。 ○一人一台端末との親和性を鑑み、多様性に対応した授業を創造していく。	○基礎的読解力の6つの分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTを授業の中に設定する。児童が主体的にOUTPUTする場面を設定する。	○単元配列表及び板橋のiカリキュラムを活用し、教科横断的な視点で各教育活動の内容を有機的に関連づけ、SDGsやSTEAM教育の視点を踏まえながら、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの推進を図る。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○教科書の文章や問題文の意味、意図を正しく読み取る「読み解く力」の育成を意識した授業を意図的・計画的に行う。 ○テキスト「未来へ」を活用し、「緑のカーテン」等の自然環境を生かし、地域の人材ボランティアと児童との交流を図る活動を通して、SDGsの達成に貢献するESDの視点を踏まえた環境教育を推進する。 ○「めざす子ども像」を念頭におき、義務教育9年間を意識した系統性・連続性を配慮しながらキャリア教育やアントレプレナーシップ教育を充実させる。	○組織的にカリキュラム・マネジメントを行うことで、総合的な学習の時間と各教科を関連させ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えるための資質・能力を育成する。 ○ESDの推進やSTEAM教育の充実をめざし、必要に応じて総合的な学習の時間の質的改善を図る。 ○探究的な学習をさらに充実させるため、ICTを活用した学習を積極的に推進する。	○デジタル教科書、電子黒板、一人一台端末等の教材・教具の意図的・計画的かつ効果的な活用による授業革新をすすめ、学習活動の充実を図る。 ○多様な学習形態で多様な児童の個に応じた能動的な学びをすすめ、個別最適な学びや協働的な学びの実現をめざす。